

文学部歴史学科 中学校一種（社会）・高等学校一種（地理歴史）

【教員養成の理念】

大谷大学は、その目的を「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献すること」（学則第1条）と定めています。仏教の精神により豊かな人格を涵養することは本学が全学的に目指しているところであり、歴史学科も例外ではありません。

さらに歴史学科は「日本を含む東アジアの歴史及びそれと不可分な仏教など諸宗教・思想を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の育成をめざ」（学則第3条）しています。科学的・実証的な歴史学の研究を通じて人類のこれまでの歩みをたどるとともに、地理学・政治学なども学び、今を生きる者が直面するさまざまな課題を考察し、未来に向けて主体的に活動することができる人材の育成を目標としています。

【理念を実現するための教員養成の構想】

上記の目標を達成するために、歴史学科では、日本を含む東アジアの歴史を中心に、西洋史・思想史・美術史・考古学・地理学などの関連する科目、さらに広く法学・政治学・国際関係などの社会科学分野の科目を学んでいきます。また卒業論文を必修とし、学生自身が「みずから研究課題を設定し、先行研究の成果を咀嚼しつつ、一次史料を読み込んで考察を加え、結論を導きだす」という経験を積むことで、社会にあって自主的・主体的に生きていく力を養成することを目指しています。

【学科として養成したい教員像】

以上のような歴史学科の人物養成の理念は、そのまま教員養成の理念でもあります。すなわち歴史学科では、仏教の精神により涵養された豊かな人間性を持ち、歴史学の研究を通じて身につけた深い専門的知識と、広い国際的な視野を兼ね備え、歴史・地理の理解や公民の知識を通じて、現代社会を多面的に洞察できるような教員の養成を目指します。とくに卒業論文に取り組むことによって身につけた課題を主体的に設定し解決する能力、また一次史料を読むことで得られた「過去と直接対話する」という経験は、教員にとってきわめて貴重なものです。豊かな人間性と的確な指導力があり、博識で本質的な意味での「おもしろい授業」ができる先生、そのような教員の養成を目指します。